

論文番号	8 (第10回研究会 2012.11.24 於青山学院大学)
タイトル	BCCWJ「Yahoo!知恵袋」「Yahoo!ブログ」における複合動詞「～切る」の文法化現象
著者名(所属)	志賀 里美 (恵泉女学園大学・神奈川大学 非常勤講師)
連絡先 Eメール	tontonburiburi@live.jp
<p>先行研究より、複合動詞「～切る」の後項動詞には「①切断(彼は固い肉を噛み切った。) ②終結(彼は彼女の事をきっぱりと思いつ切った。) ③完遂(彼はマラソンで42.195キロを走り切った。) ④極限(彼は過酷な労働により心身ともに疲れ切った。) ⑤自信満々(彼は自分の意見をきっぱりと言いつ切った。) (杉村 2008: 63)」の意味用法があるとされているが、どの意味がよく使用されているのかという母語話者の使用実態を調査した研究は見当たらない。</p> <p>そこで本研究では、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス オンライン版 1.0.2」(以下、「BCCWJ」と記す)に収録されている「Yahoo!知恵袋」「Yahoo!ブログ」の中で、母語話者は「～切る」をどのような意味で使用しているのか、また、どの用法の使用頻度が高いのか、という2点について考察した。</p> <p>調査手順としては、まず、「Yahoo!知恵袋」「Yahoo!ブログ」から「～切る」を抽出した。その結果、延べ語数 1,567 語、異なり語数 268 語の「～切る」が抽出された。そしてその異なり語数 268 語中より使用頻度上位 32 語(延べ語数 1,065 語)を対象に、「①切断」「②終結」「③完遂」「④極限」に分類した。</p> <p>その結果、「①切断」「②終結」の意味はなく、「③完遂」「④極限」「その他(一語化したもの)」の意味で使用されていた。</p> <p>この結果から、「～切る」は、「③完遂」「④極限」の本動詞の「切断」とは異なる接尾辞化した意味で多用されている、つまり、本動詞の意味が漂白化され、文法化がかなり進んでいることが分かった。文法化とは、P.J.ホッパー他(2003)によると「語彙項目や語彙構造が、ある言語の文脈の中で文法的な機能を果たすようになる過程」のことである。</p> <p>また、複合動詞「～切る」は完了のアスペクト形式としてよく知られているが、「③完遂(余った灯油は使い切らないといけない)」「④極限(人間関係で疲れ切ってしまいました)」は、「灯油を使い終わらないといけない」「疲れ終わってしまいました」という完了の意味ではなく、「その行為や状態の量が100%(もしくはそれ以上)である」(「灯油を100%使う」「疲れが100%まで達成してしまいました」という達成量を表わすモダリティ的な意味で使用されている。これは、「③完遂」という意味が、行為が完遂するとその対象物も消費されることから、時間的視点が達成量(使い終わる→100%使う)へと移行し、「④極限」という意味が派生した結果、アスペクト形式が弱まりモダリティ的な意味の使用へとシフトしていったということではないだろうか。</p> <p>本研究では「Yahoo!知恵袋」「Yahoo!ブログ」において、「～切る」が「①切断②終結③完遂④極限」どの意味で使用されているかを考察した。その結果、「③完遂」「④極限」で多用されており、文法化がかなり進んでいることが判明した。また、アスペクト的な完了の意味が弱まり、モダリティ的な「その行為や状態の量が100%(もしくはそれ以上)である」という達成量を表わす表現での使用が中心である可能性が高いことが分かった。</p>	
<p>参考文献</p> <p>李暲洙(2003)『韓・日両言語の複合動詞と対照研究—文法と語彙—』J&amp;C</p> <p>杉村泰(2008)「複合動詞『一切る』の意味について」言語文化研究叢書 V7 名古屋大学大学院交際言語文化研究科</p> <p>田辺和子(1996)「日本語の複合動詞の後項動詞にみる文法化」日本女子大学紀要 文学部第45号</p> <p>日本記述文法研究会(2007)『現代日本語文法3』くろしお出版</p> <p>森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店</p> <p>P.J.ホッパー E.C.トラウゴット(2003)『文法化』(訳者 日野資成)九州大学出版会</p> <p>【資料】国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス オンライン版 1.0.2」</p>	